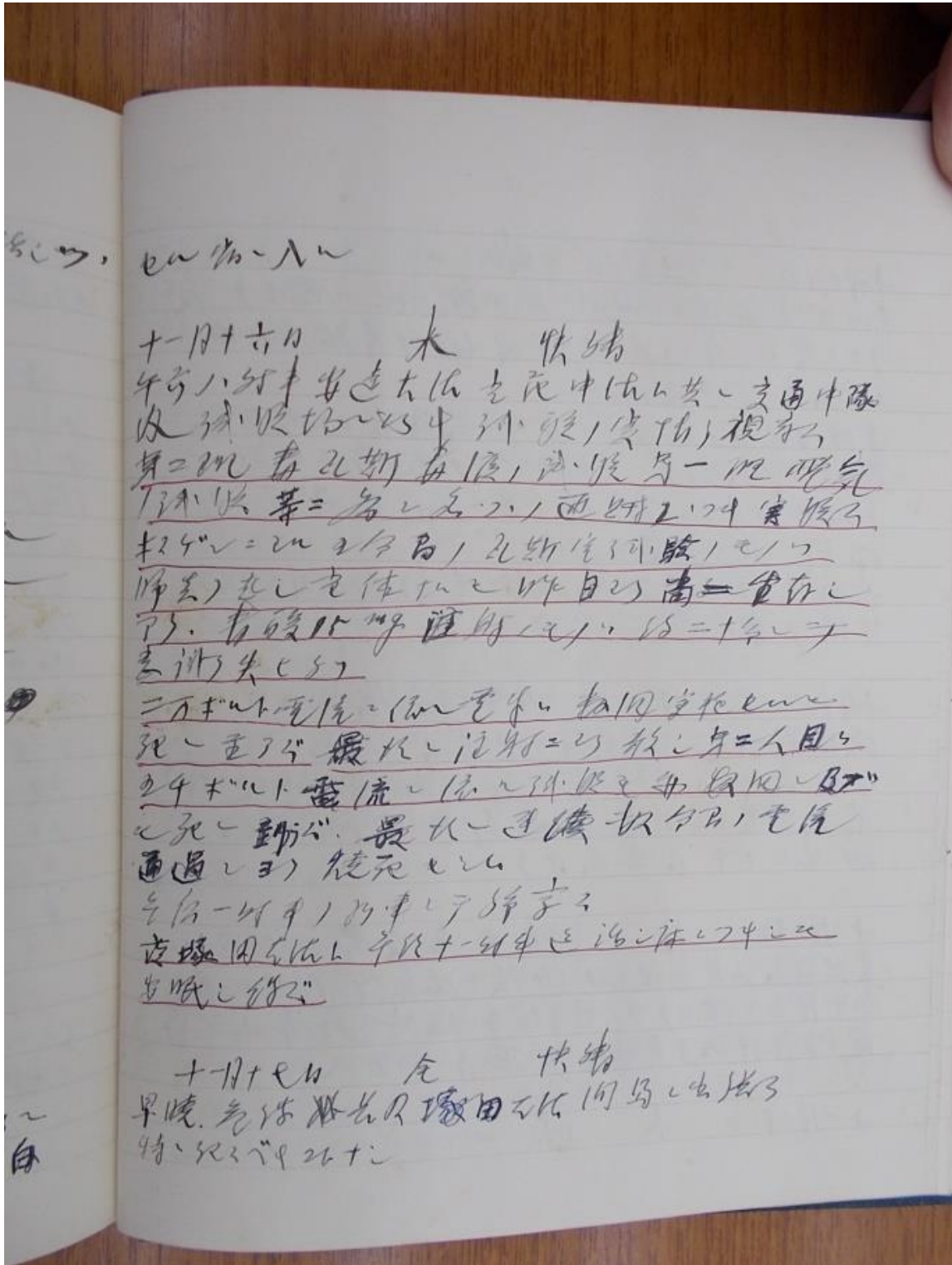


# 遠藤三郎「日誌」

1933年11月16日



今日、色々入る

十一月十六日 水 快晴  
午前八時半出立古河 古河中央公園、交通中隊  
及球技場、中央公園、(古河)視察  
舞=現存瓦斯倉庫、油庫、(一)現存  
/球技場、舞=各二名、(二)油庫、(三)倉庫、  
村々=現存古河、瓦斯倉庫、(一)古河  
師長)在古河、(二)古河、(三)古河、(四)古河、  
了、古河、(五)古河、(六)古河、(七)古河、  
古河、(八)古河、(九)古河、(十)古河、  
二万五千、(一)古河、(二)古河、(三)古河、  
死=古河、(四)古河、(五)古河、(六)古河、  
五千、(七)古河、(八)古河、(九)古河、  
古河、(十)古河、(十一)古河、(十二)古河、  
通過、(十三)古河、(十四)古河、  
古河、(十五)古河、(十六)古河、  
古河、(十七)古河、(十八)古河、  
古河、(十九)古河、(二十)古河、

十一月十七日 金 快晴  
早曉、古河、(一)古河、(二)古河、  
古河、(三)古河、(四)古河、

白

1933 年

十一月十六日 木 快晴

午前八時半、安達大佐、立花中佐と共に交通中隊内試験場に行き試験の実情を視察す。

第二班、毒瓦斯、毒液の試験、第一班、電気の試験等にわかれ各〇〇匪賊二(人)につき実験す。

ホスゲンによる五分間の瓦斯室試験のものは肺炎を起し重体なるも昨日よりなお、生存しあり。青酸十五ミリグラム注射のものは約二十分間にて意識を失いたり。

二万ボルト電流による電圧は数回実施せるも死に至らず、最後に注射により殺し第二人目は五千ボルト電流による試験をまた数回に及ぶも死に至らず。最後に連続数分間の電流通過により焼死せしむ。

午後一時半の列車にて帰京す。

夜、塚田大佐と午後十一時半まで話し床につきしも安眠し得ず

(宮武剛『将軍の遺言 遠藤三郎日記』 毎日新聞社  
1986 年 4 月)

# 遠藤三郎「日誌」

1933年11月15日

砂川川に其の地終獨に寺作原ノ葦條途中の路に、  
午後七時半許に在り而合入  
地口を流着(仁)テヲ寺内ニ迎フ

十一月十二日 月 星晴

寺古古伝来

出張中ノ事務處理ニ了ルニ一ハリ  
物立寺内ノ各等傷投擲及連絡ニ  
長年迄 軍中ノ官ノ傳統計ノ官ニ對シ  
地口報ヲ著テ起テス

走子ノ新技、何れヲ区リテハ松ノヤ  
テテテテテテテテテテテテテテテテ  
ガ

十一月十四日 火 晴

物に記スベキ事ナシ

十一月十五日 水 陰

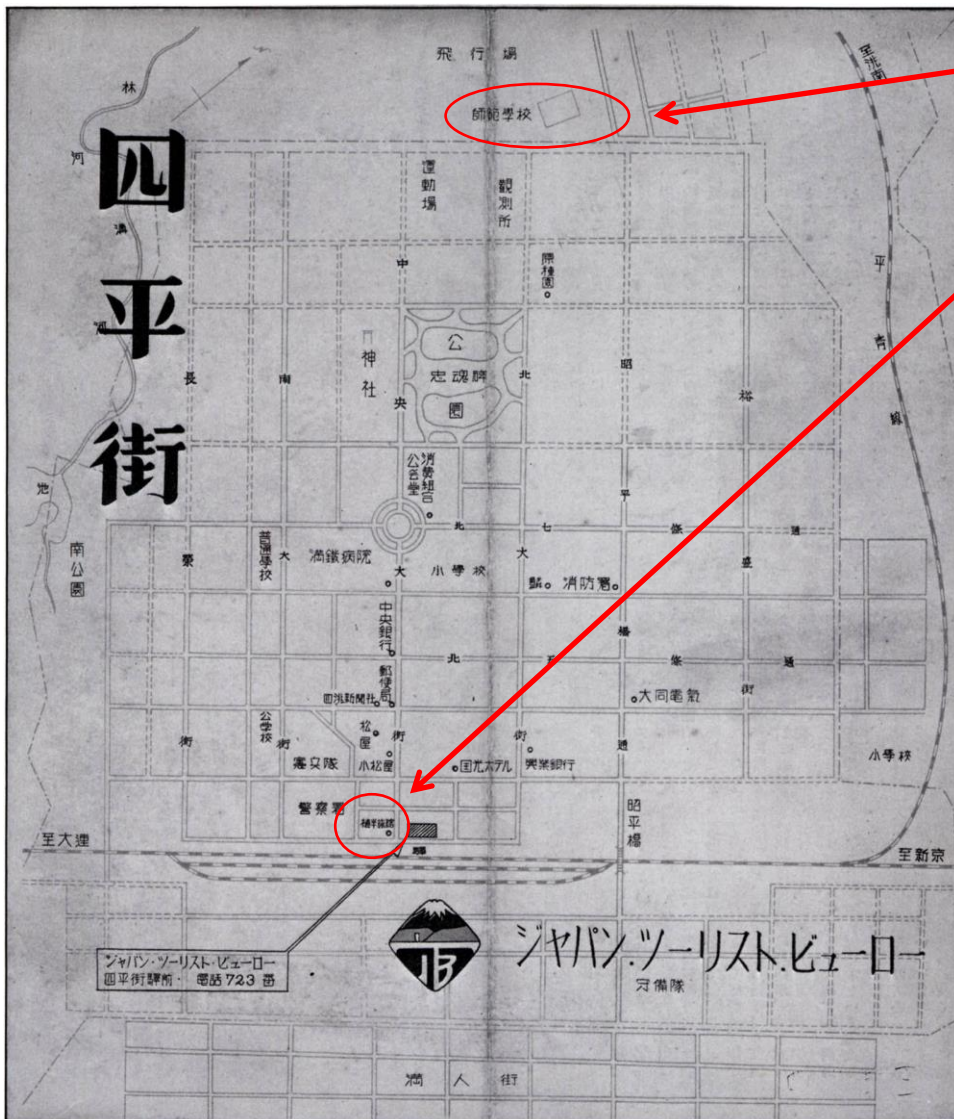
物に記スベキ事ナシ

前日古伝ノ道判合アリニ已中平街ニ去ルニ付  
合テス

午後七時半ノ所ニテ中平街ニ行、二市橋ニ  
日比 地車宿館ニ投擲 近年森中川ノ自

1933 年

十一月十五日 水 降雪 特二記スベキコト  
ナシ 前田大佐ノ送別会アリシ己四平街ニ  
出張スベキニ付欠席ス 午後七時半ノ列車  
ニテ四平街ニ行ク 二年振りニ同地植半旅  
館ニ投宿 往年森中将ノ泊セル宿ニ入ル



東北第一交通  
中学校跡地

植半旅館



陸軍 滿鐵會社 御指定  
諸官衙 明治生命保險株式會社  
四平街代理店  
滿洲國四平街驛前

植半

旅館部 電話二〇〇番  
グリル 電話三五〇番  
大衆食堂 電話一五五番  
食料品店 電話五三二番

安藤岩喜著『趣味の  
四平街』(四平街地  
歴研究会 1939年1  
月)